

クロタラリアによる被覆と播種前年の除草剤処理の組み合わせは、より効果的な抑草効果が期待できる（南相馬市）

福島県農業総合センター 浜地域農業再生研究センター

事業名 営農再開支援事業

小事業名 営農再開に向けた農業生産環境の改善

研究課題名 園芸品目の栽培に向けた緑肥作物の選定（南相馬市）

担当者 小椋智文、大矢浩司

I 新技術の解説

1 要旨

緑肥作物のクロタラリアは、被覆による夏生一年生イネ科雑草の抑制効果があり、クロタラリア播種前年秋期にグリホサートカリウム塩液剤（ラウンドアップマックスロード）や、播種前冬期に塩素酸塩粒剤（クロレート S）を散布することで夏生一年生イネ科雑草の抑制効果がさらに高まる。

- （1）クロタラリア播種により、無処理よりも夏生一年生イネ科雑草の発生は少なかった。
- （2）前年に除草剤処理（グリホサートカリウム塩液剤（ラウンドアップマックスロード）、塩素酸塩粒剤（クロレート S））を行うことにより、クロタラリアによる被覆のみよりも夏生一年生イネ科雑草は少なく、クロタラリアの生育量も多かった。

2 期待される効果

- （1）営農再開前の保全管理期間中に、より効果的な雑草防除と地力増進が期待できる。

3 活用上の留意点

- （1）試験は営農再開前の保全管理期間中の畑地で、スギナ、一年生イネ科雑草、広葉雑草が確認できるほ場で実施した。
- （2）グリホサートカリウム塩液剤（ラウンドアップマックスロード）は2020年9月下旬に10a当たり2000mlを雑草茎葉散布した。塩素酸塩粒剤（クロレート S）は2021年1月下旬に10a当たり40kgを全面土壌散布した。塩素酸塩粒剤（クロレート S）は医薬用外劇物であり、休耕田（1年以上作付けしていないところ）での使用となっており、散布後3か月以内は作物栽培ができない。
- （3）クロタラリアは6月下旬に10a当たり8kg播種し9月上旬にすき込んだ。すき込み時の草高は約180cmであり、モア等による細断とロータリー等による耕うんが必要である。

II 具体的データ等

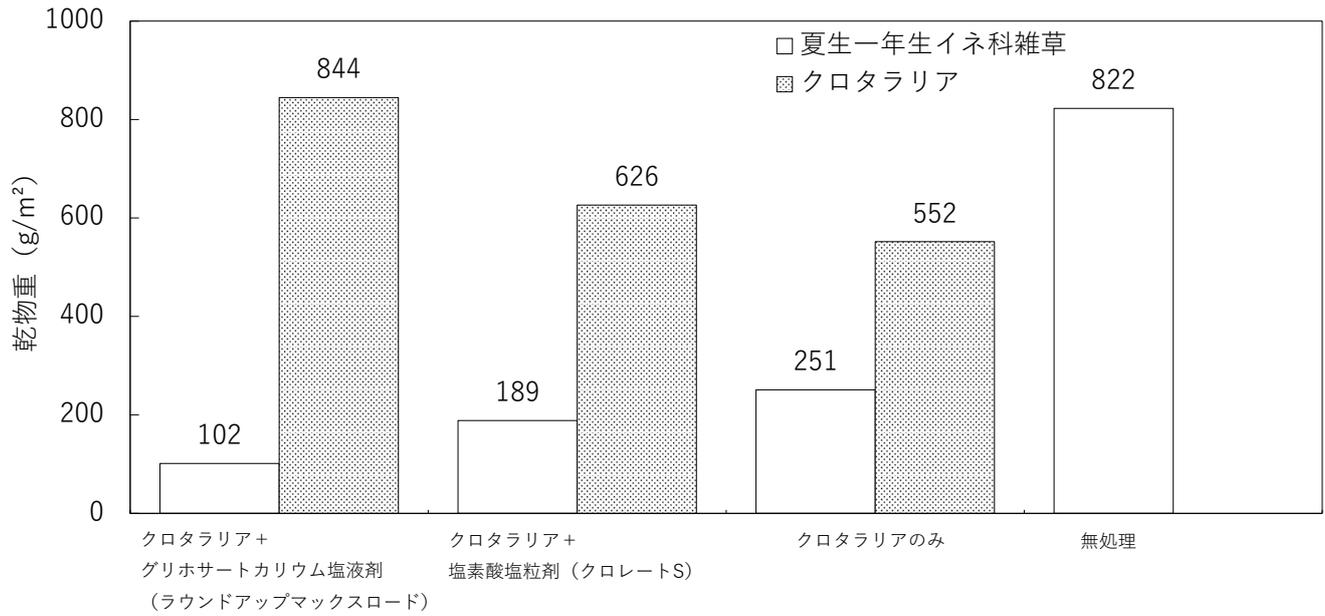


図 除草剤処理とクロタラリア播種を組み合わせた時の夏生一年生イネ科雑草とクロタラリアの乾物重 (9/3)

III その他

1 執筆者

小椋智文

2 実施期間

令和3年度

3 主な参考文献・資料

- (1) 令和3年度営農再開技術情報 保全管理期間中の冬にクロレートSを散布すると翌春のスギナの発生を抑えることができる (南相馬市)